

## 校長研修だより83

### 「禁止」と「奨励」

2022・11・25 重枝 一郎

10月の「校長講話」を覚えているだろうか。「リスペクト・アザース」というタイトルで話した。その話の中で、否定形の表現だと人の脳は能動的にならないという話をした。「廊下を走るな！」より「廊下を歩きましょう」、「トイレを汚すな！」より「いつもトイレをきれいに使っていただきありがとうございます」などの話をした。そして、「差別をするな！」より「（何になると思いますか？） 」という問いを生徒に投げかけた。

私たちの日常では、生徒に対して「禁止」表現が多い。

「もう夏休みも終わったんだから、いつまでもダラダラしてちゃだめだろう！」

「遅刻するから、夜遅くまで起きてちゃダメ！」

生徒は頭ではもちろん理解しているのだが、なかなか行動に移せない。人の脳は、「～しない」「～するな」という命令にうまく反応できないと言われている。

ある小学校の公衆電話の話を聞いた。その電話は、10円玉以外使用できない。だから「10円玉以外使用禁止！」の貼り紙をした。その貼り紙もむなしく、子どもたちは5円玉や1円玉、中には100円玉を入れ、しょっちゅう故障させていた。教師がそんな子どもたちに理由を聞いたところ「10円玉以外を入れたらどうなるんだろう」という理由が大半だったそうである。つまり「10円玉以外使用禁止！」の貼り紙は逆効果となっていたということである。

この話をもとに、当時の自分のクラスの生徒に「どんな貼り紙が効果的か？」という話し合いをさせた。小グループに分かれて「どんな文言が効果的か」を話し合った。様々な文言が出たが、最終的には「10円玉を使ってくれてありがとう！」が賛成多数となった。

この例からもわかるように「奨励」の言葉使うことが、抵抗なく受け入れられることにつながる。先に例として書いた「禁止」の言葉も、

「休み明けのテストに向けて本気で勉強しよう！君の本気が見てみたい！」

「最高のコンディションで一日をむかえてみよう！」

にすると、背中を押すコミュニケーションになるのではないかと思う。

そして、この話は「コーチング」の話であることは言うまでもない。

また、実は、この「奨励」の言葉には、もう一つの観点が盛り込まれている。それは

「**未来承認**」である。この「未来承認」は、その人の想像力を高める効果がある。私

は、生徒と目標をつくるときにもこの効果を期待していた。

例えば部活動で、選手と私で「県大会優勝おめでとう！」という目標をつくったことがある。練習中に「県大会優勝おめでとう！」と声かけをすることもあった（笑）。選手たちはそう言われると、できるような気になったり、そのうちどうしたらできるかということ話し合うようになったり、「優勝した自分たち」として練習計画を立てたり、最後には「絶対優勝してやる！」に変わっていた（笑）。

大会が終わって、選手たちは、「初めは無理だと思っていたが、やれるかもと思うようになった」「最後の方は、絶対やってやるに変わった」「こんな気持ちの変化の経験は初めてだった」「優勝という結果以上に仲間の大切さに気づいた」と言っていた。